

○ジュニア育成からシニアの健康増進について 梅林教授

- ・ 2015年4月から教育学部開設
- ・ 堺市ジュニア育成プログラム事業
- ・ 運動能力向上について、学生が中心で指導
- ・ 熊取町で体力若返り講座
- ・ スキルとは
- ・ 体力、技能、精神力→スキル（技能）→達成力
- ・ タレント性
- ・ 1万時間の法則
- ・ 天才は1万時間に及ぶ激しい練習をこなして頭角現す。
- ・ 頭角現すまでに必要な時間
- ・ 早期専門家に適した種目と早期多様化に適した種目ある
- ・ 身長伸びる、1, 2年前にしっかり運動すると色んなものが向上する
- ・ 筋力トレーニング女子は13, 14歳くらい
- ・ 日本とカナダにおける高齢者の健康づくり・体力づくり
- ・ 何のために運動？
- ・ 健康？→山に登るため、旅行に行くため・・・大切では
- ・ 運動習慣と死亡率は反比例
- ・ 肉体的、精神的、社会的に完全に良好な状態のことを健康という
- ・ 体力には防衛体力と行動体力の二つがある
- ・ 活力年齢
- ・ 筋力の加齢変化、50歳くらいから落ちる
- ・ 特に下肢の筋肉が落ちる
- ・ 中高年齢者に適した運動は有酸素運動
- ・ 有酸素運動→筋力づくり→ストレッチ→バランス能力
- ・ ストレッチは入浴後が効果的
- ・ 有酸素運動を週に2から5回
- ・ 筋力トレーニングを週に2から3回

○学生による課外活動報告「スクールサポーターの活動」について

藤本祐貴くん 体育学部4回生

- ・ 子どもに与えすぎるのはよくない
- ・ どの程度手を貸してあげたらいいのか先生と相談しながら活動
- ・ 学生が直面する問題

- ・週 1, 2 階大学生が学校に来る
- ・生徒が大騒ぎして、なあなあになる
- ・そうならないように一線を引く。
- ・教師と生徒の関係をどう築くかが大事でここに苦勞
- ・関係できたうで叱るのと、関係できていない段階で叱るのでは反応違う
- ・援助の程度に悩み
- ・発達の遅れはどのクラスにも言える
- ・学習障害
- ・一番学んだこと
- ・子どもと向き合っ取組むことの大切さ
- ・子どものためにを念頭に置いて何が適しているのか考え、行動することが大切

行松大介くん 体育学部 4 回生

- ・特別支援学級 3, 4 年生の授業サポート
- ・特別支援の子が増えている
- ・見た目は普通の子と変わらない
- ・その子によって、自分でつかめるヒントを考える
- ・自分でできたことに対して達成感をもつ
- ・クラスに 3, 4 人いる発達障害の子を、クラス全員が受け入れているクラスあった
- ・伝わらない
- ・自分に足りないから
- ・自分の未熟さを痛感する場

スポーツ教育学科長 神崎氏

- ・ 3 つのコースで構成
- ・コーチング法
- ・体育科教育
- ・スポーツマネジメント
- ・健康スポーツ教育
- ・指導者不足について
- ・インターンシップで学生を自治体への現場派遣